

東京大震災の報に接して、世界の同情は熾烈を極めた。國境を撤す、人類愛の高潮は、如何に悲愁に沈める吾國民に、力強い慰めを與へたことであらうか。

### 一、全米に漲る同情

桑港震災に悲惨なる經驗をなめてゐる米國の同情は、最も深甚なるものがある。從來排日紙と云はれた桑港エキザミナーの如きも率先して、かゝる災害に當りては人種的國民的差別觀念は無用である。サンフランシスコ市民は貧富の別なく救済金募集に應せなくてはならぬと絶叫し、ジャーナルは日本は罹災地復興の爲めに巨額の借款を必要とするであらうが、米國は日本の借款申出でのあつた時は、進んでこれに當るべきであると論じ、クロニクルは大統領が東洋艦隊に對し日本救済のため出動命令を發したのは機宜を得たと冒頭して、盛んに日本の救援を唱へ、前上院議員フェラム氏及びハイラム、ジョンソン氏も、熱心に救援を唱道してゐる。

#### □リ大將入京

米國亞細亞艦隊司令長官リード海軍大將は九月十九日を以て入京したが大將は曰く「艦隊は

大統領の命によつて、京濱震災慰問救助のために來朝した。貴國朝野に對し米國は、この際貴國の欲するものは、何物をも厭はず提供し、全米を擧げて救助に當るの覺悟である。」

#### □救護船續々

米國赤十字社からは、マコイ陸軍少將が四隻の汽船に山の如き物資を積んで、九月二十一日横濱に入港して、直ちに破壊した横濱埠頭の真ん中に千坪餘りの大天幕を張つて、それ等の物資を陸揚げし、罹災民の救護を開始したが、續いて同月二十六日には米國政府から派遣された第一救護船ソナム號が、藥品その他衛生材料、食糧品等三千噸の貨物を積んで横濱に入港した。義金の募集も全米各地に行はれてゐるが、既にニューヨークの米國絹絲業協會からは四十萬弗を贈つて來た。

#### □研究所提供

米國ロツクフェラー財團では、今回の災禍によつて其の研究所を破壊された日本の醫學者のために、北京にあるロツクフェラー病院を提供し、日本に於ける研究機關の復舊するまで自由に研究を繼續せしむることになつた。

## 一、英國官民の義捐

英本國では倫敦市が眞先きに立つて救援を叫び、倫敦市長の手で義捐金を募り、既に其の額千四百五萬五千圓に達したが、引續き多額の義捐があると云ふ。愛蘭からも率先して同情の電報を送つて來た。又た英國新聞通信關係者は、ロイテル及び國際兩社を通じて日本の新聞通信關係者に對し、左の如き電報を寄越した。

今回日本に突發せる戦慄すべき大災厄に關し英帝國新聞全部 加盟せる英國新聞協會を代表して貴國新聞界の僚友諸君に深厚なる同情慰問の意を表し併せて其の甚大なる憂慮困苦及び損害に對し吾人同業者は心より其悲歎を共にする者なる事を告ぐ。

一九二三年九月五日

英國新聞協會々長 バ ー ナ ム

同 委 員 長 ロバート・ドナルド

尙ほ英本國政府からは白米百噸を寄贈して來たし、救世軍のブ羅斯大將は日本救濟義捐金として二百萬ポンドを募集すべく、世界各國民に訴へてゐる。

## □ 濠洲、加奈陀、印度

濠洲聯邦政府は、日本震災救濟費として六百萬圓を支出することに決し、この内十萬圓は決定と同時に駐日英國大使の手許まで送り、別に食糧を滿載した救護船を派遣することに手配した。

加奈陀政府は材木商組合と協力して、多量の材木を日本に寄贈することになつた。此の外義捐金として日本赤十字社に二十四萬五千弗を送つて來た。

又た印度總督レディング卿も、日本罹災民救恤金募集に着手することになつて、總督個人として取敢へず五千ルーピーを醸金し、官民の醸金十七萬五千ルーピーと共に、第一回として日本赤十字社に寄贈した。

## 三、伊太利、佛蘭西、和蘭

伊太利はしばしば地震の災害を蒙つてゐる關係から、恰も希臘との間に兵火を交へ、國情騒然たる場合であるにも拘はらず、日本の震災に深甚なる同情を表して、全國弔旗をかゝげ、一

切の歌舞音曲を禁じたる外に、駐日伊太利大使館を経て日本政府に、災民救助の爲めに必要とする物資の申出を求め、日本政府より申出あり次第、極力その要求を充すべく、又た首相ムツソリニ氏は、罹災者收容所として簡単に組立て得べきバラック家屋を日本に寄附する旨を申出でた。一方伊太利赤十字社からも取敢へずシャツ、下着、毛布等一萬五千枚を日本に寄附することに決した。

佛蘭西も亦た獨逸との關係險惡を極めてゐる折柄ではあるが、日本震災の報を接手すると同時に、大統領の命令を以て、歌舞音曲を停止し、官民一致で百二十萬フランを募金し、巴里赤十字社からは、二百五十磅の義金と多量の白米を贈つて來た。又ガロンヌ縣では一萬法の義金支出を決すると共に全縣に亘り「日本デー」を催して普ねく縣民より義金を募る事になつた。尙ほ佛領印度支那からも、支那米百噸と醫藥材料を日本赤十字社に寄附して來た。

和蘭本國と蘭領東印度に於ても日本に對する同情熾烈を極め、即刻救濟委員會が組織されて、既に双方より金五萬圓宛合計十萬圓の義金を贈つて來た。

#### 四、墨西哥と智利

メキシコの同情は盛なるもので、舉國一致日本救済を叫び、朝野の有力者は勿論、勞働者小學生全般に亘つて極力義金を募集し、集まつた金は其の都度日本公使の手許に届けてゐる。

智利も亦たしばしば地震の脅威を受けつゝある關係から國民一般痛切なる哀悼の意を表し、殊に同國の震災當時日本が率先して救護船を送つたことに對して、今更に感謝の念を起し、國際聯盟總會の日本震災善後に關する動議には、智利代表が極力賛成演説を試みることに、大統領から特別の訓電も發せられたさうだ。

#### 五、支那と波蘭

支那は一齊にボイコットを止めて日本救援を叫び、政府は直ちに罹災民救恤費として二十萬元を支出し、一方内務及農商務の兩部をして委員を任命せしめ、衣類、食糧、藥品等を日本に寄贈すべく、努力してゐる。又た宣統帝からも愛藏の骨董品を現金に替へて寄贈するやに傳へ

られる。

ポーランドでは、曾て日本が露西亞から逃れて來た全國の孤兒を救助したこともあり、かたゞ震災に對する同情が盛で、日本の罹災兒童に贈るべき品物や義捐金の募集を始め、特に此の擧に奔走する少年團の一委員會までが設けられた。

## 六、外人の嘆賞

### 一、歐洲に見られぬ敏活

今次の災厄に處する日本人の態度について獨逸大使ゾルフ博士は語る。「恰度鎌倉に滯留中の娘の許に行かうと東京發の汽車に乗つたが、汽車が横濱近くに至ると急に停つたので驚いて皆が線路に下り、車掌の云ふが儘横濱驛まで徒歩で行くと、壁は落ち煙突は倒れ非常に危険であつた。同行してゐた英人が「地震後の火事の方が怖ろしい」といふので、卑怯者の様に再び横濱を逃げ始めたが、實に生命に關はることであつた。平塚では道傍の空自動車に避難し、やつと鎌倉にたどり付き、倒れた海濱ホテルの庭に寢て、翌日津浪に浚はれたと思つた娘にも逢ひ

歸りには横須賀から軍艦と水雷艇でやつと五日に東京に歸つた。さて此の數日間に見た日本人の態度については賞賛するよりもお辭儀をする。街で婦人も叫ばず、途方にも暮れず、着々として罹災者は各自の仕事をし、早速に小さな小屋を作つて住み、たちまちにして全國から救済の手が廻り、秩序は整然とし、電燈水道電車は直ちに復舊するなど、歐洲に見られぬ日本人の特性と政治の才能は賞嘆するに餘りあることで、此意氣込みでは回復は見えてゐる内だと思ふ。日本家屋については柱と柱の間に斜な支柱を入れないのが脆い原因と思ふ。火事に就ては道路が狭すぎることを遺憾とする。寺やお宮の様な廣場のある處が焼け残つたのを見ても解らう。私は始めて此様な大地震にあつたが、メシナや桑港のはこれ程では無い様に聞いた。それから日本人の相互扶助のことに就ては好い挿話がある。私が自動車を通れなくなつて、車中に帽子を脱いで置いた儘、何もかぶらずに横濱から歩いて來ると、一人の百姓婆さんが、さぞ暑いだらうと、わざと汚い帽子を取出して私に呉れた。私は感謝の念に満ちた。此美しい精神こそ新東京を建てる源泉とならう。

### 二、驚くべき靜穩

世界を擧げて

帝國ホテルに避難した東京在留の外人連は、口々に日本人の落着いた態度と、秩序の迅速に保たれたことを賞讃してゐる。其の中の一人米國合同通信社通信員デュボンス氏は曰く、「かゝる大災變に際した東京の秩序は眞に見事なものである。我々外人は皆口を極めてこれを激賞して居る。サンフランシスコの震災の時は災害を受けて倒れた人の懷中を探がし、死體を漁つて指輪のはまつて居る指を切り取るやら其他さまざまの不逞の徒が跋扈して、犯罪行爲は諸所に起つたのであるが、今日東京の状態は誠に靜穩で、治安は遺憾なく保たれて居る。幾十萬といふ罹災者の中には親を失ひ妻子に別れ其他さまざまなる悲惨状態にある者も勿論多數であらうが、何處へ行つても泣き叫ぶ婦人子供の聲も聞かぬ。こんな時にあり勝ちな精神の錯亂者も見受けぬのは、實に日本人に對する敬服の念を新たにせざるを得ない。」

## 三、日本の地位動かす

英國のオウザーヴァー紙は曰く「日本今回の大震災は、國際政治上にも至大の影響を及ぼし、獨逸などに於ては實際に日露獨の政治的同盟となる可き日露同盟を構成せんと考へてゐたが、此の夢想は今や全く一掃された。而して日本は今回の大震災の爲め、世界の一強國としての今

日の地位に影響を受けるとの説は信することが出来ない。桑港の震災に於ける如く日本が確實に、而かも迅速に完全なる回復を見るべきは、近代に於ける日本の奇蹟とも云ふべき進歩に見ても明かである」と云ひ、且つ日本人が勇氣と忍耐をもつて今回の災害に耐へ、不撓不屈の精力を以て復興に着手した事實に對し、熱烈なる讚辭を表して曰く「日本は迅速に混亂状態を統御したが、此點に於て歐洲諸國の中で日本に匹敵し得るものあるや否やを疑ふ」と云つた。

□世界の児童より□  
□日本の児童へ□

世界教育聯盟協會長トーマス博士は九月二十五日左の電報を澤柳政太郎博士に寄せ、全世界の児童に日本児童の慰問救恤を訴へつゝある旨を通じて來た。

世界教育聯盟協會會長として小生は、日本の児童に對する友誼と同情より、其の學校に復歸するを助くる爲め、學用品其他を寄贈すべく、聯盟加入の五十ヶ國の児童に訴へつゝあり。

帝都の復興

## 一、大詔降下

### 一、依然たる國都

攝政宮殿下には、九月十二日午前十時三十分、山本首相を赤坂離宮に御召しの上、左の大詔煥發の御沙汰を賜ひ、首相は謹んで拜授、聖旨を奉體して、普ねく天下に布告すべき旨を答へ奉り、御前を拜辭した。

### 詔書

朕神聖なる祖宗の洪範を紹き光輝ある國史の成跡に鑑み皇考中興の宏謨を繼承して肯て、らざらんことを庶幾し夙夜兢業として治を圖り幸に祖宗の神祐と國民の協力とに頼り世界空前の大戦に處し尙克く小康を保つを得たり奚ぞ圖らん九月一日の激震は事咄嗟に起り其の震動極めて峻烈にして家屋の潰倒男女の慘死幾萬なるを知らず刹へ火災四方に起り炎々天に冲り京濱其の他の市邑一夜にして焦土と化す此間交通機關杜絶し爲めに流言蜚語盛に傳はり人心恟々として倍々其慘害を大ならしむ之を安政當時の震災に較ぶれば寧ろ凄愴なることを想到

せしむ

朕深く自ら戒慎して已まざるも惟ふに天災地變は人力を以て豫防し難く速に人事を盡くして民心を安定するの一途あるのみ凡そ非常の秋に際しては非常の果斷なかるべからず若し夫平時の條規に膠柱して活用することを悟らず緩急其の宜を失して前後を誤り或は個人若くは一會社の利益保障の爲に多衆災民の安固を脅すが如きあらば人心動搖して停止する所を知らず朕深く之を憂暢し既に在朝有司に命じ臨機救済の道を講せしめ先づ焦眉の急を拯ふて以て惠撫慈養の實を擧げんことを欲す

抑々東京は帝國の首都にして政治經濟の樞軸となり國民文化の源泉となりて民衆一般の瞻仰する所なり一朝不慮の災害に罹りて今や其の舊形を留めずと雖も依然として我國都たるの地位を失はず是を以て其の善後策は獨り舊態を回復するに止まらず進んで將來の發展を圖り以て巷衢の面目を新たにせざるべからず惟ふに我が忠良なる國民は義勇奉公朕と共に其の慶に頼らんことを切望すべし之れを慮りて朕は幸臣に命じ速に特殊の機關を設定して帝都復興の事を審議調査せしめ其の成案は或は之を至高顧問の府に諮ひ或は之を立法の府に謀り籌畫經

營萬遺算なきを期せむとす。在朝有司能く朕が心を心とし速に災民の救護に従事し殿に流言を禁遏し民心を安定し一般國民亦能く政府の施設を翼けて奉公の誠悃を致し以て興國の基を固むべし。朕前古無比の天殃に際會して郵民の心愈々切に寢食爲に安からず爾臣民其れ克く朕が意を體せよ。

御名 御璽  
攝政 名

遷都の流説も一掃され、一望際涯なき燒野原に立つて、茫然爲す所を忘れてゐた東京市民は、今この優渥なる大詔の降下に浴して、富豪も貧乏人も、有産者も無産者も、一齊に奮ひ起つて、こゝに帝都復興の熱烈なる叫びが、決河の勢で全東京に漲ざるに至つた。

## 二、聖旨奉體

帝都復興の詔書を拜受した山本首相及び永田東京市長は、聖旨に副ひ奉るべく、十六日左の

如き告諭を發した。

□總理大臣告諭

我至仁至慈なる 天皇陛下には今回震災の被害極めて慘烈なるを深く軫念あらせられ曩に内帑の資壹千萬圓を下し賜ひ今亦 大詔を煥發して惠撫慈養の道を示し給ふ不肖就任後日向淺く此の 鳳命を拜して恐懼措く所を知らず敢て帝都復興の計を立て以て上は 宸襟を安じ奉り下は數百萬罹災者をして生活の安定を得しめむことを期す今回の震災は其の區域一府四縣に跨り東京を始めとして横濱其の他湘南房總の地特に被害の劇しきものあり家屋を燒盡し父母骨肉を喪ひたる數百萬の災民は殘壁燼瓦の間に佇みて食ふに糧なく着るに衣なく焦髮爛身命旦夕に迫る者比々皆然り在留外國官民の遭難者亦甚多し是れ不肖の共に心痛已まざる所なり此の時に際し友邦の元首を始め各國官民の今次事變に至大なる救援の厚情を表せられたるは不肖同胞と共に感謝措く能はず但夫れ多數罹災民は概ね能く危急を冒し艱苦に耐へ沈着の態度を失はざりしも此の間多少の常軌を逸したる者あるを免かれず此の如きは一時の誤解に外ならざりしを以て今や全く其の跡を絶てり



固より今次の震災に方り政府夙に臨機の措置を取り戒嚴令を布き糧食の供給假舎の急築に着手し極力流言蜚語を禁遏し非違を警め民間亦政府と相呼應して賑恤救護の義舉に出づる者多く爲に焦眉の急を拯ふことを得たりと雖一時の救恤は以て災民持久の生活を保障するに足らず是を以て政府は鋭意水陸交通の復活を圖り財政の許す限りに於て金融機關の圓滑を期し衣食住に關する必需品を調達して遭難地方に提供しつゝあり此の場合に際しては官民俱に平時の條規に膠柱せず公道に基き人情に酌み便宜責任を負ひて變通の道を開かむことを切望す憂ふる所は此の稀有の天災を奇貨とし個人又は會社の生活必需品を運用し機を見て暴利を征せむとするに在り此の如きは最も戒飭せざるべからざる所にして 聖慮を注がせ給ふ所亦此に存す各自能く其の公德心に訴へて私利を後にし以て多數同胞と苦樂を共にするの覺悟あるを要す例へば保險事業の如きは其の性質上社會公衆の安固を目的とするものなるを以て此の重大なる事變に顧み幾十萬の信頼に負かざるやう犠牲の精神を發揮して慎重の考慮を盡し營業者終局の利益を期すべく其の他米穀木材船舶等の營業者亦俱に營利の目的を離れて物資の配給に勉め以て同胞共榮の美を濟さざるべからず

政府は今や極力物資を豊富にして之を震災地に急送せしめ都鄙の別なく之が公平なる分配に勉めつゝあり局に當るの所在官公吏は益々物資供給の敏活を期して之が普及に努力すべく一般官公吏亦此の非常の場合に處し心身の許す限り職務に執掌すべし殊に職に治安の任に在る者に至りては懇切に民衆を勞はると共に嚴密に非違を警め以て其の責務を完うすべし願ふに東京は 先帝登極の初特に車駕東幸して親しく宮城を定めさせ給ひし所爾來五十有六年の星霜を閱して國都の規模既に備はり政治經濟の樞軸となり文教風化の淵藪となり中外の具に瞻望する所なり之を復興するの努力如何は世界列國の環視する所我邦實力如何を知るの試金石亦此に在り是の故に帝都の復興は單なる一市府の問題に非ずして實に帝國の隆運を進暢する國家重要な事實たり随つてその方策は 聖旨を奉戴し常に舊時の盛觀を回復するのみに止まらず更に進で將來の發展を豫想し之が計畫を立てざるべからず之が爲政府は先づ帝都復興審議會を特設し朝野の衆智を集めて重要な案件を審議し別に適當の機關を設け緩急序を逐うて着々其の成案を實施せしめ以て國都たるの實を完うせしむことを期す  
茲に恭しく 大詔を奉讀して仁慈の渥きに感激し恐懼已む無し熟々考ふるに昌平日久しくし

て人心漸く浮華に流れ放縱に走り歴代の内閣累次に訓示策勵すれども積弊の馴致する所容易に頽風の一轉を見ず今や非常の難局に際會して 宸襟を惱し奉ること此の如し是れ朝野一般竦然として大に覺醒すべきの秋なり願みれば罹災府縣數百萬の同胞は骨肉に別れ住家に離れ今尙短褐雨露に暴され一掬の玄米に縲命を繋ぐの情態に沈淪せり苟も之に同情せば人々相戒めて華を去り實に就き質素勤儉依て得る所の餘力を以て罹災同胞の救護に應じ同心協力進で帝都復興の難事業に至大の援助を與へ興國の基を固うし以て 聖慮に副ひ奉るは不肖の切望して已まざる所なり

大正十二年九月十六日

内閣總理大臣伯爵 山本 權 兵 衛

□東京市長告諭

本市今回の凶災は大地震に加ふるに大火を以てし延焼十四區に亘り四十一萬一千餘戸を燒毀し百五十四萬七千餘の罹災者及十數萬の死傷者を出だし本市面積の約五割を焦土に歸せしめたり忝くも天皇陛下には深く災殃を軫念あらせられ内帑を發して贍救し有司に命じて救恤惠

撫到らざる所無からしめ更に大詔を下して人身趨向の準規を示し臨機果斷以て非常の時に處し緩急愆らす以て善後の措置を擧げ獨り帝都の舊態を回復するに止まらず進で將來の發展を圖り以て巷衢の面目を新にすることを望ませられ特殊機關の設置を命じ籌畫經營萬遺算無きを期せしめらる盤穀下の臣民たる者誰か恐懼感激せざらんや不肖市長の任に膺り災害措置の重責に直面し外名譽職員の犠牲的奉仕に倚り部下全員の必死的活動に俟ち方に施設の漏遺無きに勉む幸に舉國官民の齊しく起ちて救援應護の吝まざる有り之が爲め食糧その他の諸材料皆缺乏を訴ふるに至らず人心日に安定し凡百の旋爲今や將に次を以てその緒に就かんこと此れ本職の窺かに欣ぶ所なり然れども振古未曾有の慘害に遭ふ之が復興の業に至つては決して容易ならず聖旨を奉體し鞠躬盡力事に當るも猶且及ばざらんことを恐る市民諸氏亦共に天殃を戒畏し節制有る行動を採り秩序安寧を確保し一面には自重自信して大市民の意氣を失はず絶大の覺悟を以て奮然興起し自治的精神を發揮して公私一致能くこの事業を完成し之を後昆に垂れ以て上優渥なる聖旨に副ひ奉らんこと寔に本職の切望して已まざる所なり。

大正十二年九月十五日

帝都の復興

東京市長 永田秀次郎

### 三、帝都復興審議會

帝都復興の一大使命を帯びた山本内閣は、その最高の諮詢機關として、帝都復興審議會を特設することに決定し、同月十九日御裁可を経て、その官制並びに委員の任命を發表した。

#### □審議會官制

第一條 帝都復興審議會は内閣總理大臣の諮詢に應じ帝都其の他の震災地の復興に關する重要な案件を審議す

第二條 帝都復興審議會は帝都其の他の震災地の復興に關する重要な案件に付き内閣總理大臣に建議することを得

第三條 帝都復興審議會は總裁一人委員若干人を以て之を組織す

第四條 總裁は内閣總理大臣を以て之に充つ

委員は國務大臣、國務大臣たりし者、親任官又は學識經驗ある者の中より之を勅命す

第五條 總裁は會務を統理し會議の議長となる

總裁事故あるときは内閣總理大臣の指名する委員其の職務を代理す

第六條 帝都復興審議會に幹事長一人幹事若干人を置く

第七條 幹事長は委員の中より之を勅命す庶務を掌理す

第八條 幹事は内閣總理大臣の奏請に依り内閣において之を命ず幹事長の命を承け庶務を整理す

第九條 委員は國務大臣の禮遇を受く

#### 附 則

本令は公布の日より之を施行す

#### □審議會委員

外務大臣	男爵	伊集院彦吉
内務大臣	子爵	後藤新平
大藏大臣		井上準之助

陸軍大臣	男爵	田中義一
海軍大臣	財部	財部 彭
司法大臣	平沼騏一郎	平沼騏一郎
文部大臣	岡野敬次郎	岡野敬次郎
農商務大臣	男爵	田健治郎
逓信大臣	犬養毅	犬養毅
鐵道大臣	山之内一次	山之内一次
	子爵	高橋是清
	子爵	加藤高明
	伯爵	伊東巳代治
	子爵	江木千之
	子爵	澁澤榮一
日銀總裁		市來乙彦

帝都復興審議會委員被仰付

和	子爵
田	青木信光
豐	大石正巳
治	

帝都復興審議會幹事長被仰付

審議會委員	子爵	後藤新平
-------	----	------

內務次官	塚本清治
內閣書記官長	樺山資英
法制局長官	松本丞治

帝都復興審議會幹事被仰付

即ち政友會總裁高橋是清子、憲政會總裁加藤高明子、貴族院研究會の青木信光子、幸派の江木千之翁等、いづれも首相の相談役として、共に帝都復興の大事業に盡力することを快諾したのである。

内閣組織の當初に於て、山本伯の標榜するところは、各黨首を網羅した舉國一致内閣であつた。しかも革新俱樂部を代表する一犬養氏の入閣を見たのみで、高橋加藤兩黨首の拒絶に逢ひて、伯の第一次獻立は覆へされてしまつた。圖らざりき帝都空前の大災禍は、政見、感情、もしくは黨略の一切を蹴破つて、舉國一致の全努力を、此の一大事業に集注することゝなつた。政争中止！ 是れ日本國民の國家非常の秋に處する、傳統的一大國民性の發露である。

#### 四、復興院成る

復興審議會を起した政府は、更にその執行機關として、復興院を新設し、着々復興事業の歩を進めることになつた。復興院總裁は後藤内相之れを兼任し、土地整理局、供給局、建築局、土木局、計畫局、經理局の六局に分けて、各専門家が事業を分擔し、新東京の建設に當る事となつた。同院幹部の顔觸れは左の如くで、此の外參與、評議委員等がある。

兼帝都復興院總裁

内務大臣 子爵 後藤 新平

北海道長官

宮尾 舜治  
松木 幹一郎

帝都復興院副總裁

宮尾 舜治

兼土地整理局長

松木 幹一郎

兼物資供給局長

工學博士 佐野 利器

理事 建築局長

工學博士 直木 倫太郎

理事 技監兼土木局長

社會局長官 池田 宏

理事 兼計畫局長

帝都の復興

理事 總裁官房長

鐵道省參事官

金井清

□復興事業と財源

後藤 總裁談

帝都復興に要する經費は、各方面で調査中のものを取り纏めて見なければ算定は出来ないが此の際速かに復興計畫を定めて着手し、五六年後は大體の復興事業を遂行したいつもりで、又たこれに要する財源も成るべく外債に依らず、國內の資金を以て充當したいと思つてゐる。參與は大體次官を任命するのであるが評議委員の數は、七十二名の多數であつて、而もその詮衡範圍は貴衆兩院議員、學者、實業家、府市の名譽職とし、且つ物資供給の關係上大阪方面の實業家をも任命するつもりであるから、この發表は多少遅れるであらう。

五、都市計畫

一、十年計畫の復興案

東京市復興に關する都市計畫については、最初五十億圓の經費を投じ二十年を以て理想的の帝都を造らうとの案もあつたが、それでは餘りに年月が長過ぎるとあつて内務省都市計畫局では、更に第二案即ち經費三十一億圓十ヶ年計畫で新東京を現出すると云ふ案を立てた。該十年計畫案の大要は左の如きものである。

□貫通大道路

從來の都市計畫によると横町線が幅員廿八間、東京驛が四十間、日比谷公園周圍が廿四間、大手町通り廿間等が、一番幅員が廣いことになつてゐるが、本案では横町線は四十間とし、公園周圍は廿八間その他廿四間位の道路は少くない。幹線は總て放射線とし、丸の内日比谷附近を中心として郡部まで一直線に作る。この道路はことごとく幅員廿四間であつて、中心地から目黒澁谷新宿、目白、巢鴨、大塚方面へ十本位放射幹線が出来る。中には本所柳島から起つて淺草、上野神田を経て澁谷へ達する一大貫通道路などもある。品川方面へも日比谷公園側から幹線がつくられる豫定になつてゐる。芝浦沖のうめ立て地にも二條位の幹線が出来る。随つて日本橋方面から銀座通りへかけ現在十五間幅の道路は、廿四間幅に改造される豫定である。補

助道路でもことごとく六間幅とするし、一面既設道路の整理もやるし、また新設道路も少くない。この道路の改造復舊費は概算六億圓である。

□工場地帯に運河

本所深川方面の工場地帯には縦横に運河を開鑿する。京橋、日本橋、神田等商業地方面における現在の大小の運河は、小なるものをうめ立て、大なるものは改修の上そのまゝ聯絡して使用するが、この方面には新設は少い。該經費は概算一億七千萬圓である。

□大小公園新設

今回の地震による火災に鑑み、七八十ヶ所の大小公園を設ける。既設大公園はそのまゝとし小公園は改造して大きくする外、新設豫定公園中大なるものは、本所方面では宮内省内匠寮調馬所、柳島の陸軍被服廠倉庫跡、龜戸天神の境内も區域を擴張して改造する。三萬餘の震災犠牲者を出した被服廠跡、白鬚橋兩國間の隅田川岸に河岸公園、深川區は洲崎遊廓跡、中央糧秣廠跡、岩崎男別邸、外一ヶ所。淺草區は吉原遊廓は郡部へ移轉せしめてその跡を公園とする。京橋區は逓信省及び農商務省跡。芝區芝離宮の一部。青山墓地も移轉して公園とする。小石川

區は陸軍造兵廠跡、大學植物園、出来れば牛込區の陸軍士官學校を移轉して公園にする。その他戸山ヶ原も公園にする計畫だが經費は不明

□防火水道と下水

上水道は新道路が出来るとその間聯絡のため、在來のものまで鐵管を敷設せねばならず、また外國の例にならひ、樞要部に特別高壓の防火専用水道を設ける豫定だからこの經費四千萬圓位。又た下水道は目下第二期工事をやつてゐたのだから、幹線は大體そのまゝ使用するが、支線は變更を要する個所あり、更に未着手の個所も多いから大體該經費一億八千萬圓の見込。

□地下線と塵芥

地下埋没物はすべて架空線をゆるさず地下線のみにする。水道幹線の外ガス管だけは別にせねばならぬが、その他の電燈線、電力線、電信電話線、水道支線等は一つにまごめて暗渠をつくつて收容する。この經費一億二千萬圓。又た塵芥處分は五百萬圓位で塵芥を焼却の上電氣を發生させる装置をする。つまり廢物利用である。

□鐵道、電車、築港

鐵道は同省で種々調査をしてゐるからその決定をまつてゐるが、上野驛を幾分後退せしめて現位置に置き、東京驛はそのまゝ、新橋驛も大體そのまゝだが、その他は變更するかも知れぬまた貨物驛も市内數ヶ所へ設けることになり、線路その他が改造されるらしい。電車は現在の路面電車の外高架または地下の高速電車運轉させる。築港は目下調査中。

尙ほ今回の江東一帯の慘禍に鑑みて、新に隅田川に四橋を架設し、合計十二橋とする云ふ案もある。

### 二、商工業地と住宅地

新東京の商業の中心は、依然として京橋、日本橋、神田等であるだらうし、日谷谷公園から神田橋に至る一帯はオフィス街となり、櫻田門三宅坂虎ノ門地域が官公署の集合地となり、本所深川の一帯は純然たる工業地として發展し、山ノ手方面及び瀧野川、池袋、目白、中野その他の隣接郡部は、今度の地震で著るしく地盤の強固なることを示した理由から、益々住宅地として發展を見るであらう。既に各宮家におかせられても、此の際郡部移轉の御希望があつて、それ〴〵適當の敷地を御物色中と云ふことでもあるから、大倫敦、大紐育のその如く、東京

市は全く活動の巷となり、少しく餘裕ある人は、續々郡部に靜安の住宅を定めることになるだらうと思はれる。

### 三、航空防禦

新東京の建造に對する軍事上殊に航空防禦に對する軍部側の意見を綜合すると都市道路を環狀線及放射線となし、道路は相當の廣さを保たしめ、地區間の距離が通常火災及び焼夷彈等に依る耐火等に對する防禦を爲し得る事とせしめたい。家屋は耐震耐火に可能なるもので、木造家屋は一定の地區に集合せしむるの要がある。又地下鐵道を開設し、主なる官廳會社等には地下室を設ければとて歐洲大戰の經驗によれば、一噸位の爆彈を投下した例があるから、完全とは云はないが斯かる事は稀である。地下鐵道の開設の如きは路面鐵道が、頻りに他の交通機關に依つて破壊せらるゝ状態より比較して、決して高價なる所以のものではあるまい、次に平生に處する防火地帯即ち公園其他を多く市内に設置し、軍事上必要の場合は、茲に航空防禦機關を据付け得るの便宜を爲さしむることも必要である。理想的に云へば河川の下に地下道を設け橋梁遮斷に對する防備等も是非設けさせたいのである。



四、桑港の復興

東京市政調査會の招請に應じて十月初旬再び米國から來朝したピアード博士は、帝都復興の参考資料として、桑港並びにサロニカ市復興に關する報告書の要點を摘録し、後藤内相に提出した。

□桑港地震火災主要事實

- 一、一九〇六年四月十八日震災起り火災忽ち之に續いて三十個所に起り三日に亘りてなほ終熄せず
  - 二、罹災家屋數一二八、一八八
  - 三、死者四九八、重傷者四一五
  - 四、家を失ふ者二十萬人、當時全人口四十五萬人
  - 五、財産損害額は約五億弗、火災保險支拂額約二億弗
- 復興方法
- 一、調票カード方法に依り救護を要する人員の調査

- 二、各個人の必要、職業及び實務の經驗等に從ふ住民の分類
- 三、即刻建築に着手すべき地主に對する獎勵金の下賦、但し其の金額は五百弗の範圍内
- 四、土地を所有せずして家屋のみを建築せむとする者に對する給賦並に貸付金
- 五、各種小賣商人をして急速開店せしむる爲めに對する給賦並に貸下金
- 六、勞働可能者の調査及就業の爲めにする職業紹介事務の使用
- 七、職人及び機械職工をして所要器具を入手せしむる爲めにする金錢給賦
- 八、親族の許に避難し又は他地方に於て就職するため市外に出でむとする者の補助として金錢を給賦

復興事業の手段

- 一、市を區に分ち各區に役所を置く
- 二、各事務を統制するために中央委員會及各種分科委員會を設く
- 三、諸事業を一所に於て總括す

都市計畫上の經驗

- 一、一九〇五年(即ち震災の前年)有名なる米國建築家パーナム氏は大規模なる桑港都市計畫を立案せり
- 二、震災後氏は再び桑港に來りて前記計畫に改正を加へたり
- 三、當初は人皆上記の計畫が直ちに實施せらるる者と思考したり
- 四、事實は之に反し種々の理由よりして右は何等實行せらるゝところなく、只僅かに兩三街路の取擧げと後に至りて市政中心地の創設ありたるのみ
- 五、都市は忽ちにして舊狀の儘に回復せられたり、蓋し上記大計畫が當路者に依りて悠々討論せられつゝありし間に商人及び地主等は其の營業を開始せむと欲して急速建築に着手したる爲也
- 六、數年後市政中心地の建設に當り此等震災建造の建物を取除くの必要を見るに至れり
- 七、震災後六年にして地價は震災前の價格に歸せり
- 八、三年にして家屋は一九〇六年の舊價に回復せり
- 九、商人及び商事會社等は火災震災の經驗に鑑みて建築物の性質に改良を加へたり

十、市役所は其の建築規定、監督方法、防火設備等を改良せり

十一、復興に急なるの餘り、需要に超過する如き多數の建物建造せられ、一時は多數の空屋を生ずるに至れり

十二、都市計畫に依り整然たる都市を建設せむとする努力の結果の見るべき者は頗る乏しかりき

(サロニカ復興方法は略す)

## 六、火災保險金

契約高と會社の財産

今次の災害に對する火災保險金の總額は二十三億圓と計上される。これが支拂はれると否かは、帝都復興の上に重大なる關係がある。處が保險會社全部の有する財産は、僅かにその一割に當る二億三千萬圓と云ふことである。ソコデ問題は六づかしくなつた。特に保險會社の約款の上には、地震に因りて起れる損害に對しては責任を負はぬとあると云ふことが會社側の支拂

を拒む理由ともなつて、一層契約者を焦慮せしめたのである。然しながら輿論は、此の空前の大災禍に對して保險會社が、一片の條文を楯に取るは餘りに非人道であり且つ又た保險事業將來の發展の爲めでもない云ふことに一致して、盛んに支拂要求の聲を擧げ、政府當局も亦た略ぼ同様の意嚮を示すに至つたので、會社側も漸次その態度を變へ、結局政府の援助を仰ぎ、會社の基礎を危くせざる程度に於いて支拂に應じやうと云ふことに、大體意見が纏まりかゝつた。但しいよゝゝ支拂を開始するまでには尙ほ幾多の経緯があるだらうし、随つてその金額が契約高の五割であるか、三割であるか、或はもつとそれ以下であるかと云ふやうなことは、まだゝゝ先きがあるやうに思へる。

而して又た一方には、今次の災禍は地震に原因するものも固より多からうが、何等地震に關係なく放火によつて焼失したのも少くない。それ等は會社側が拂ふも拂はぬもなく當然こちらに請求の権利があると主張して、中には既に訴訟を提起した者すらある

## 七、財界名家の意見

### 一、希望を子孫に

澁澤 榮一 子談

保險金問題は單に法律的解釋によつて支拂の義務なしと云ふことになれば、經濟界は紊亂してしまふから、これは政府の力を加えて何等か安心すべき方法を講じなければならぬと思ふ。全部の保險金を拂ふ事は困難としても、この際は法律と人情とを加味した協調的の解決法が最も至當だと思ふ。即ち十のものならば二分五厘とか三分とかを拂ふといふ意味である。第二は金融界の救済法であるが、銀行としてはこの際速に支拂方法を講じてやるがよい。大阪及び漸次地方的に取つけがあつても、日本銀行及主なる銀行が協力してこれ等の取付けにドシゝ支拂ふ事は人心安定の方法であると共に金融界復活の途だと信ずる。

大東京の再造については、これは極めて慎重にすべきで、今回の大震害は天譴だとも思はれる。明治維新以來帝國の文化は駸々とした進んだが、その源泉地は東京と横濱であつた。それ

が全潰したのである。しかしこの文化は果して道理にかなひ、天道にかなつた文化であつたらうか。近來の政治は如何、また經濟界は私利私慾を目的とする傾向はなかつたか、余は或意味に於て天譴として畏縮するものである、この天譴を肝に銘じて大東京の再造に着手せなければならぬ。しかし大東京の再造といつても速にこれを建設する事は出来ないから未來の帝都はたゞかくありたいとの希望を、子孫に傳へるといふ意味に於てなしたいと思ふ。大倉男爵は東京は「武將の住居に適して封建的の都であつた。よつて再造の東京は實業界に便利なやうに再造せられん事を留意ありたい」と述べられたが頗る同感である。

## 二、拙速 第一

美濃部 俊吉氏談

帝都の復舊施設に就ては拙速を尊ぶ。敏速と云ふ事が此の際の第一要件で、此危急の場合に於ては、一日の仕事の遅延は一箇月にもそれ以上にも及ぶものであるから、當局者は先づ第一に此點に深く思ひを致す必要がある。それ／＼の復舊機關の設置が必要であることは勿論であるが、昔から船頭多ければ舟は必ず山に登るものであつて、殊に今回の如き大國難にも譬ふべ

き大事變に際しては、徒らに大計畫や大理想の樹立に其日を空うするやうな事があつては、人心の安定は何時まで得られず、生活の復舊は到底難かしいのであるから、一事一物着々として實行する事が急務である。而して此施設の目標は何と云つても經濟機能の恢復でなくてはならぬ。經濟機能の恢復にして未だ成らざるに、新帝都復興の計畫決定したりとて之が實行は決して易々と行くものではない。物の順序は如何なる場合にも肝要である。この經濟機能を恢復せしむる手段の第一は、何としても火災保險の支拂であるが、保險會社も營利事業であつて見れば、凡ての約款を無視し、震災地以外の保險契約者の利害關係を度外視し、會社を倒産せしめてまで震災地のみを爲に全力を盡せと云ふ譯には行かぬかも知れぬ。さりさて保險約款の文字に拘泥し、此大天災を顧みざらんとするは許すべからざる事であるから、會社に於ては宜しく速かに相當の保險金を支拂ひ、若くは相當の震災金を醸出すべきである。

第二には政府に於て火災保險の加入者と否かを問はず、齊しく罹災者に對して救濟金を附與する事の必要を切實に感ずる。家屋の建築などに就て唯材料關係の援助のみでは未だ徹底せりませぬ。速かなる復舊の爲には適當の救助金を支出するが適當であらう。次では救助金以外低

利資金の融通が必要である。

第三に經濟力を回復せしむる爲に金融問題を解決せねばならぬ。支拂猶豫令は危急の對應策としては己むを得ないに相違ないが、之を永く存置せしむることは一切の經濟行爲を中斷し、恢復を遅延せしむるものであるから十分な跡始末を立て廢止するのが至當である。

### 三、國債と復興税

伊東米次郎氏談

今回の罹災者は國難の犠牲になつたやうなものであるから、政府は勿論、難を免れた同胞は此際救済に對し最善の方法を講ずる事が肝要である。有志者の寄附保險金の拂戻しなどは勿論必要であるが、更に徹底的に復興を圖る方法としては、此の機會を利用して復興税を國民に課し、此の税金を金利に充て、之によりて國債を募る事が得策である。復興税の新税は國民負擔を重からしむるやうであるが、行政財政の整理を斷行したならば、形式に於て新税ではあるが國民負擔の上に於ては何等の苦痛がない。之れと同時に交通運輸、各種保險事業の如きものを國有とし、政府が其利益を管理し、實務には民間の經驗あり、且知識ある當業者をして之れに

當らしむべきである。震災前に於て日本は政治上にも、經濟上にも、思想上にも、あらゆる方面に行詰まつて居つたから、震災と共に單に震災地のみでなく、國民全體が大いに努力せねばならぬ事となつた。此の意味に於て帝都復興審議會は須らく帝國復興と改めて、日本全體の爲めに審議する事が寧ろ當然である。

### 四、商業復活が先驅

山成喬六氏談

今回の大震災の善後應急施設としての第一段方策が、食糧の配給衣類の供與及び居住の安定にある事はいふまでもなく、此點に就ては既に大體の目的を達し近く一段落を告げる事と思はれるが、之に次で現るべき第二段の施設は、之までの救済と異り、復興建設に一步を進むるもので、其第一は労働者に職業を與へる事であり第二は中央的商業取引を開くことである。

今回の大災害に因りて、多數の失業者を生じたことは、想像以上と思はれる。而して一面是等多數の労働者を要する工場其他各般の事業は、大部分壊滅の悲運に遭遇し、當分復活の見込立たざるものが多いべく、従つて従前の如く労働者を必要とせざるを以て労働の機會は隨所

に局限せらるゝものと見ねばならぬ。併しながらこの罹災労働者に一定の職業を與へ、一定の賃銀の上に生活せしむる事は、復興の前の安定に絶対必要事であるのみでなく、又此事に依りて一般の消費は發生し、茲に一般商行爲は起るものであるから、若しも工業の復活思ふに任せず、失業労働者の就職限りありとするならば、宜しく國家は復興事業を速に開始して全部の失業労働者に職を與ふる事に努める事が最も緊要である。

第二に行ふべきは商業取引の開始である。一般消費の増加に伴れて商取引の敏活を來すは理の當然であるが、今日の場合の如く一般の商業者が資金に窮乏し、且信用の一時的破壊せられたる場合に於いては、先づ之に資金を與ふることを必要とする、支拂猶豫令の期限到來と共に之を廢止し、必要に應じて預金引出を可能ならしむるは當然のことであるが、然し銀行側から云へば、預金は無制限に引出されて貸金は一切取れずと云ふ事では、潰れてしまふより外に行く所はない。故に資金充實のため日本銀行の徹底的援助を乞ひ、十分に商工業復興資金を融通して貰ふ必要が起るのであるが、扱て個々の實際問題となると、如何に本家本元の日銀とて、根柢微弱な小銀行の爲に裸になつて援助することも困難であらうと思はれるから、予は此の際

# 欠

關東一帶

欠

## 一、横濱市の全滅

—附・神奈川郡部—

### 一、東京以上の激震

九月一日東京と時を同じくして起つた横濱市の地震は、東京以上に激甚を極めて、道路は縦横に大龜裂を生ずる。建物と云ふ建物は殆んど悉く倒潰して、壓死者無数。全市を擧げて阿鼻叫喚の巷と化した間もあらず、火は市街の四方から起つて、折柄の強風に吹き煽られ、南に飛火し北に燃え移つて、炎焰天を焦がし、渦巻く紅蓮は全市を呑んで、家も人も、草木も、すべてを焼き盡さざれば止まざらんが如く、ゴーツ、ゴーツと唸りを立て、その間を右往左往、火の子を全身に浴びながら逃げ惑ふ市民の光景は、眞に凄絶慘絶を極めた。

### 二、寂しく残る高架線

猛火は二日までに、全横濱を焼き盡してしまつた。横濱市街を一目に俯瞰した伊勢山の總氏神皇太神宮も倒潰して龍山宮司が重傷を負ひ、不動尊もあへなく焼け落ち、一方縣廳官舎を

圍んで大谷嘉兵衛翁の本邸も、若尾幾造氏の別邸も、一ト甜めに焼き拂はれ、此のあたり一帯掃部山にかけての櫻の名所も、地震と火災に名残りを止めず、慘たる焦土と化してしまつた。

横濱驛から櫻木町驛までは、高架線が寂しく残つてゐるだけで、右側の人家は跡方もない。僅かに横濱市職業紹介所だけがシヨンボリと唯一つ。焼け落ちた櫻木町驛を後に辨天橋に立つて見れば、一望漠々たる焼野原で、眼界を遮るものとはない。電車線路はヘナ／＼に折れ曲り、横濱公園では水道が破裂して廣い池が出来た。

火災が起ると棧橋は避難者で埋まつてしまつた。折柄碇泊してゐたコレヤ丸は、それと見るどすぐボートを出し、港内の汽艇も悉く出て、それ等の避難者を收容したが、中には乗り切れずに海に飛び込んで溺死したのも少くなかつた。コレヤ丸外數隻の汽船に收容した避難者は約二萬三千人からあつた。

平沼方面の川に浮べてあつた筏に逃れたものは、石油罐が爆發して川に落ち、それに火が燃えつた爲め大火傷を負ひ、そのまゝ悶絶して水底に没し去つたのが多數あつた。

グランドホテルも灰燼に歸し、海岸の松並木も一本残らず焼け枯れてしまつた。名物の南京



街は、粗末な煉瓦造りが多かつた爲めに脆くも全部倒潰し、それに通路が狭いので逃げ出す途中下敷きとなつて惨死したものが數知れずあつた。外人街も地震と大火で廢墟と化し、多數の外人が壓死、又は焼死を遂げた。縣廳官舎の焼跡に二間の堀立小屋を建て、<sup>本館</sup>松原内務部長等と共に假住ひをしてゐる安河内知事は、その日に限つて和服で登壇したが爲めに、あつちこつちと逃げ回つてゐる内に、羽織も袴もごうなつたのか、單衣一枚となつて公園の泥水に全身を浸し、やつと焼死を免れることが出来た。

此の日横濱地方裁判所では、某刑事事件について公判開廷の最中であつた。當本裁判長、小野檢事、それに二人の辯護士が控へて、今しも檢事の論告が終り、やをら辯護士が立ち上らうとする刹那、ドシンと持上げてビシャリツと潰れた。裁判長も、檢事も、辯護士も、被告も、傍聴人も、聲さへ立て得ず、崩壊した煉瓦の下敷きになつて、そのまゝ一切が死に封せられた。

本牧箕輪下に平尾榮亮と云ふ若き富豪があつた。姉が某獨逸人の愛妾であつたので、日獨戰爭當時、獨人の財産沒收から、その經營の商館全部と、キネマ界に名高きオデオン座と、かれこれ五六百萬圓ばかりの財産が、そつくり自分の物となつて、今まで下級の事務員であつた者

が一躍富豪の仲間入りをして、毎夜豪遊を試みたあげく、料亭八百政の大廣間で、藝妓を相手にベースボールをして夜を明かしたと云ふ話もあつたが、今度の震災で商館もオデオン座も残らず灰となつたばかりか其身も無慘の壓死を遂げて、そゝろに榮華の夢の果敢なきを示した。

### 三、不安の十日間

横濱刑務所は倒潰と共に囚人を解放したが、その中の悍猛な一團は、警察力の薄弱に乗じて盛んに市中を荒らし廻り、更に多數の無賴漢も至る處掠奪、傷人、或は婦女を〇〇し、その間無稽の流言が八方に行はれて、市民は生きた心地もなかつた。

ソコデ全市の青年團員が、舉つて市中の警護に當り、各自左腕に赤布を巻き、山と川の合言葉で、五人十人と隊を組み、交互に市街の要所を回つて、辛くも秩序の維持に力めた。四日奥原少將の率ひる歩兵一個聯隊と騎兵一個聯隊とが到着し、群馬縣からも二百名の警官が來着して、極力不逞の徒輩を檢舉し、老幼婦女の保護に任じた。

けれども無賴の徒は容易に絶えず、軍隊警官の隙をねらつては、隨所に剽盜を働らき、或は團を組んで大仕掛けの掠奪をするので不安の思ひはいつまでも續いた。十一日に田中陸相が視

察に来て、今更惨害の甚しきに驚き、多数の兵力を増派するに至つたので、漸く無政府の如き状態も改まり、次第に秩序を恢復するに至つた。

#### 四、倒壊焼失家屋と死傷者

神奈川県警察部の調査によれば、横濱市内の死者は二萬三千六百七十七名、重傷者四萬八百八名、軽傷者無数。又た倒壊後焼失した家屋は六萬八千三百九十八戸で、残存するものは半壊家屋もこめて二萬五千百十二戸に過ぎない。

此の死傷者の中には、横濱市各小學校の児童も多数含まれてゐる。乃ち九月二十六日の調査によれば、死亡せる者七百九十五名、重傷者八百九十名、行衛不明者(結局死亡と思はれる者)百二十一名、合計千八百名に達してゐる。

又た居留外人の死傷者は、支那人を除いて死亡百四十六名、行方不明七百十四名、負傷八百五十二名で、死者の中には英國總領事ヘーグ氏、同商務官ホーン氏、佛國總領事ジャールタン氏等の知名の士がある。

南京街が一軒残らず倒壊しただけに、支那人の死亡数は非常に多く、約二千十餘名に達し、

この他行方不明五十二名、負傷者六百名を算する。

猶ほ此の震災の爲めに、我國近代文化史の重要な地位を占むる「横濱開港史」は、横濱市史編纂局の手で既に完結に近づいてゐたのに全部焼失し、それに加へて大藏省、文部省、三井家を始め、横濱村當時からの舊家の貴重なる記録をも借りて置いた、その四萬餘冊をも烏有に歸し、かくて詳細なる「日本開港史」は遂に求め得べからざるものとなつた。

#### 五、罹災者救護

職業紹介所に假事務所を設けた市役所では、取敢へず二萬坪のバラックを建て、遠方に暮れる罹災民を收容すべく、軍隊及び各青年團、在郷軍人會等の應援を求め、職工人夫を督勵して、専らこれが工事を急いだ。バラック建設地として市の選んだ所は、

掃部山、神奈川洲崎神社、岡野町濟生會病院、福富町、山下町、女子師範跡、井戸ヶ谷、高島町、花咲町、西戸部、伊勢町、根岸其他

で出来上つた個所から漸次罹災者を收容してゐる。糧食の配給は足りてゐるが、副食物は殆んど渡らず、稀れに「一人當り鯪一本、茄子一つ」と云つたやうな有様で、これが爲め榮養不良

に陥つて「鳥目」を患らふものが漸々と殖え、一方衣類の配給も極めて少なく、寒空に向つてこれ等の罹災者がどれほど困難するか、これを又た如何にして救助すべきかについて市當局は少なからず苦心してゐる。

震災後約一ヶ月になつても、水道の破壊したまゝで一滴の水も出ず、電車の開通もホンの名ばかり、唯電燈のみは漸く點き始めたので、市民はホットトト息してゐる。

#### 六、新生の意氣

震災前の横濱市の人口は、四十三萬二千九百三十二名であつたが、震災後海路及び陸路縣外に避難したものが約二十三萬人、それに死亡者二萬三千六百餘人あつて、差引十八萬人に激減してしまつた。この後市中の秩序が漸く立ち、復興氣分が起るに及んで追々に歸來し、今は三十萬人近くにもなつて、一度び死滅せる横濱市にも、一道の光明が認め得るやうになつた。

横濱市の生命は、云ふまでもなく港灣である。然るに今回の大震によつて其の陸上の全滅と共に港内も亦た被害が多く、到底貿易港としての復興不可能なるが如くに云ふものもあつたが、事實はそれほど復舊は困難でない。萬國港灣會議に列席して最近歸朝した内務省技監原田

貞介氏は、破壊せる横濱岸壁の状況を視察して、「港の水深 測量の結果、大體に於て變化がない。詳細のことは海軍の潜水夫の力に待たねばわからないが、岸壁の基礎も著るしい狂ひはなく、防波堤も形體を變へず約六七尺正しく陥没してゐるばかりで、世間で考へてゐるよりは早く應急の恢復は出来ることと思ふ。經費は棧橋の修築も合せて約一千万圓を要するであらう。」と語つたが、軍艦球摩の潜水調査に依れば、港底の被害は輕微なもので、大船の來泊に差支なく、應急修理だけで従前通り使用出来る見込みである云ふ。港の恢復は横濱市の恢復である。新生の意氣を以て横濱市が、活潑なる海外貿易を開始するのも遠くはあるまい。

而して震災以來、生糸貿易を取扱ふ外國商館の大部分が神戸に移つたので、少なからず前途を悲觀せしめたが、横濱生糸取引開始と共に、一番館を始め大手筋商館が、續々歸來し、一方信州武州方面の荷も後から〜と入荷することになつたがため、生糸貿易港としての横濱の地歩は、いよゝゝ確實となつたのである。

#### 七、神奈川郡部

□厚木の大地割れ

神奈川県で最も震害の甚しかつたのは厚木町附近で、厚木中學があるために中學道路と呼ばれてゐる大山街道戸室坂の上り口には、長さ四十間幅五六間深さ六七尺餘もある大龜裂を生じ、厚木の關門たる相模橋の渡り口三十間、將棋倒しに折重つて河原に落され、鮎の名所と云はれてゐる相模川は、さながら朱泥を撒いたやうだ。厚木町の家屋は全部倒壊し、同時に火が起つて、半以上を焼拂つた。

□保土ヶ谷、秦野、戸塚

保ヶ土谷町では全戸數四千三百餘戸の内、八分倒潰、二分半壊、殆んど全滅に近く、死傷者も多數である。煙草で知られてゐる秦野町は全部家屋が倒壊し、それに火を出した爲め、町の中央部が焼失し、死傷者百五十人に達した。戸塚町及び本郷村方面の家屋倒壊九百戸、死者七十名で杉山町長も惨死した。

□川崎大師と總持寺

鶴見にある曹洞宗本山總持寺は、香積堂、待鳳館、僧堂、大倉庫を始め大伽藍十一棟倒壊し、損害三百萬圓と稱せられる。川崎大師は本堂及び山門不動堂を除くの外全部倒壊した。又川崎

町では東京電氣、明治精糖、淺野セメント、日本鋼管、日本蓄音機、富士紡績其他の會社工場が倒壊或は大損害を蒙つた外に、民家の倒壊戸數約三千、惨死者六百五十、負傷者三千餘名を出した。殊に東京電氣及富士紡績の工場では、社員男女工四百餘名が下敷きとなつて惨死し、六郷橋はくの字なりに曲つた。川崎遊廓では貸座敷が九軒潰れて娼妓十二名壓死五十餘名負傷をした。

□老訓導の死

神奈川県愛甲郡煤谷村では、一日は恰も村の鎮守祭であつた。五百數十名の兒童を引連れて參拜に行つた同校職員の中には、老訓導星野保次郎氏(五十七)も加はつてゐた。參拜が終つて一同歸路に就かうとした途端地震が起つて兒童はバタ／＼と地上に倒れた。崖はくづれる。頭上からは一抱へもある古木の枯枝が落ち、教員は必死となつて兒童を抱へて、安全な場所へ避難させた。この時星野老訓導も多數の兒童を助け出し、尙ほも残れる幾人かを救ふべく駆け出した利那、二百貫餘もある大きな枯木が中程から折れて、あはや二人の兒童はその下敷きとならうとした。これを見た老訓導は吾れを忘れて飛込みざま、二人の兒童を兩腕に抱へて、後へ

押しやつた時も遅し、大木は凄まじく老訓導の頭上に落下して、頭蓋骨を粉碎した。二人の教へ子は助かつたが、教職に在ること四十年模範教員として縣知事から表彰されたこともある星野老訓導は、そのまゝ歸らぬ旅に立つた。未亡人安子(四十七)は病身の長男悦(十九)以下八人の子供をかゝへて途方に暮れてゐる。

## 二、湘南地方

—附、静岡縣下—

### 一、横須賀附近

横須賀市の震害も亦た激甚を極めて、建物と云ふ建物は勿論、電柱に至るまで殆んど悉く倒壊し、つゞいて猛火に包まれた爲め目も當てられぬ惨状を呈した。豊川稻荷附近、良長院附近は斷崖の崩壊によつて埋没し、停車場から水交支社に通ずる港町一帯の道路にも、崩壊した土塊の下敷きとなつて惨死したものが少くなかつた。丁度汽車が着いたばかりの事で、軍港見學のために來た千葉の女學生五十餘名も、通行人もろ共土塊に打たれて、むごたらしく死んだ。

海軍工廠は油のために七日まで燃えたが、死者は八十名ばかりで済んだ。

災後鎮守府、要塞司令部等が中心となつて罹災民の救護に力め、市内の秩序は海軍と陸軍とが協力し、多數の兵員を配置して、嚴に警戒に任じたので比較的よく保たれ、日頃軍港市民としての訓練を受けてゐる住民も、格別不安に驅られることなく、偏へに鎮守府の力によつて、その復興の日の一日も速かならんことを望んでゐる。

口浦 賀 港

日本開國の歴史に重要な地位を占める浦賀港も、倒壊焼失家屋一千三百、死者三百、負傷者二千餘名と云はれて、足の踏み場もない。

### 二、鎌倉附近

湘南隨一の史蹟を留める鎌倉も、地震と火災とで全町の九割二分(内全焼又は全壊の戸數四千二百二十、半焼又は半壊二千百三十、流失八十戸)を失ひ、死者三百七十五名を出した。山階宮武彦王妃佐紀子女王殿下にも御痛はしき御最期を遂げられた。

地震と同時に數ヶ所から出火して、またゞく間に長谷、大町、小町通りを烏有に歸し、圓覺

寺、建長寺等の名刹を始め、由緒深き大小四十餘の神社佛閣が、残らず倒壊又は焼失し、朱殿碧瓦を誇つた鶴ヶ岡八幡宮の樓門も倒れ、大塔宮も破壊した。由井ヶ濱邊は海嘯の爲めに見る影もなく、別荘は流され、逃げ遅れた百人からの人は、其まゝ激浪に吞まれてしまつた。名物長谷の大佛は、臺座が一尺五寸程地中に目入り込み、胎内入口は破壊したが大佛像には異状がない。

罹災後約一ヶ月を経て急造バラックが建ち始めると、町の有力者は第二鎌倉の建設を叫んで臨時復興調査會なるものを設け、

陸奥廣吉伯、富士川文醫博士、黒岡海軍中將、荒川前公使、莊清次郎の五氏を顧問にして専ら努力してゐる。

□松方老公

一ノ鳥居前の松方別邸も倒壊して折柄滞在中の老公も、危く梁の下敷きにならうとしたのを看護婦の機轉で突き飛ばされ、微傷を負うたのみで済んだ。

□逗子、葉山、金澤

逗子葉山も別荘旅館その他の民家も大概壊れ、御用邸も地震と海嘯で大破を蒙り、門前は約六尺程も陥没し、葉山警察署附近も概して五尺程陥没した。御用邸は直ちに修理に着手したが兩陛下の御避難までには到底復舊の見込みがない。金澤八景も全滅した。

□三浦三崎

震災の被害は概して少いが、土地及び海底の隆起は一尋乃至二尋に達し、海岸附近を航行する漁船、運送船は危険になつた。それに今まで見えなかつた澤山の岩が、海岸の至る所にニョキ／＼と頭を出したのも、著るしき地質の變化である。

三、江ノ島附近

當初江ノ島は海中深く陥没したとの説があつたが、其後の調査によれば、地質が岩石であるため、僅に二戸倒壊しただけで、江ノ島神社を始め旅館賣店とも殆んど被害なく、唯棧橋で五十名程行方不明になつた。都人の行樂地として江ノ島が不思議に助かつたのは、せめてもの慰めである。

新田義貞の史蹟で名高き稻村ヶ崎も先端崩壊し、七里ヶ濱に沿うた別荘は、残らず壊れて十

六夜清心の極樂寺も全壊してしまつた。腰越村では倒壊戸數五百十八、焼失二百七十八、死者九十二、負傷百十六名を出してゐる。

四、大船から國府津まで

大船驛は倒壊して三十餘名の従業員が惨死した。藤澤町は被害少く倒壊家屋十三四戸。

茅ヶ崎は全戸數の七割倒壊して死者百二十名を出した。平塚は相模紡績の工場が倒壊して死者百六十重傷者多數を出したが民家の倒壊は割合に少い。大磯驛の手前約三町の所で濱松發東京行の列車が顛覆し、汽罐車と客車四輛とが土砂に埋没し、死傷者四十一名を出した。

大磯は總戸數一萬六千三百餘戸の中、全壊一萬三千餘戸、半壊二千八百五十餘戸、全く滅亡した形である。被害の大きかつた割合に死亡者は少く僅かに三十二名であるが、此中には片岡恒太郎男、橋本長俊子令息等がある。稻葉子爵夫人も重傷を負つた。

二ノ宮國府津ともに土地が陥落し、倒壊家屋も多數ある。

五、小田原の慘狀

小田原は横濱にも勝る激震で、全戸數の九割九分、五千百一戸が倒壊し、それと同時に各所

からの出火で東は町はづれの松並木から西は十字町に亘つて、直徑十數町悉く焦土と化した。

御用邸の崖も倒壊し、道路は縦横に龜裂を生じた。町民は猛火に追はれて一物も取出すことが出来なかつた爲め、災後の食糧缺乏が甚しく、遂に鐵道貨物の掠奪が行はれ、小田原驛に駐車中の貨車二十八輛の積載貨物は全部町民の爲めに奪ひ去られた。死者二百七十名、此中には閑院宮寛子女王殿下を始め陸軍大將大島義昌子夫人、榎本武憲子令嬢(同夫人は重傷)代議士横田千之助氏嚴父等がある。

□酒 匂 附 近

酒匂は倒壊九百戸死者三十五名で、これ亦と全滅に近い。その他附近の小部落はいづれも被害が甚しく、至る所食糧窮乏を訴へてゐる。

六、箱 根 温 泉

箱根温泉の被害も甚だしく、國道は全部崩壊して人馬の交通が杜絶したので、工兵隊が出動して舊道を恢復し、及び鷹巢道の外に宮ノ下大平臺湯本間の道路を改修して、辛かに交通を開いてゐる。元箱根村は全村五十一戸の民家が全部倒壊し、全町百十八戸の箱根町も一軒残らず

潰滅して、箱根ホテル、石内本陣等は跡方もない。箱根離宮は倒壊を免れたが、富士見ホテルの舊館は蘆ノ湖に陥没した。蘆ノ湯では紀ノ國屋が倒れ、底倉では葛屋、成駒屋その他の旅館が谷底に頓落し、宮ノ下では奈良屋、富士屋等が潰れ、堂ヶ島の旅館も悉く潰れた。強羅、小涌谷、大涌谷、姥子、湯本等には被害少く、塔ノ澤では各旅館が内部に大破を生じた。而して同月十七日再び強震に襲はれると同時に、箱根全山八分通りの温泉の湧出が止つたので、各旅館とも非常に狼狽してゐる。

□新に出来た關所

戒嚴令の發布と共に憲兵隊が箱根山中の要所々に檢問所を設けて通行人を調査し、旅行證明と食糧携帯なきものは、斷じて關東に入るを禁じた。昔にかへつた箱根の關所として、大正震災史に逸することは出来ない。

七、熱海附近

熱海町では地震と共に海嘯が起つて、全壊家屋百四十二、流失百五十五戸、死者六十四名を出した。淺野侯爵別荘は半壊し、伊勢屋、ます屋、かまなり屋等の旅館は流失した。日本唯一

の共產村と云はれる初島は、全島著しるしく隆起したが、その人家は四十三戸の中四十戸までも倒壊した。

熱海に連る伊豆山温泉では、相模屋、偕樂園旅館等は半壊し、逢初トンネル東口では、土砂崩壊して二十六名の土工が生埋めになつたが、その中の鮮人一人だけが死んで、其他は無事に掘出された。

唯此の地震で、過般來殆んど湧出が停るかさまでに心配されてゐた熱海の間歇泉が、俄かに活潑に噴出し始めたことは、熱海の町の人に、どれほど強い喜びをもたらしてゐるか知れない。

□湯河原其他

湯河原、修善寺、湯ヶ島等の温泉場は、わづかに屋根瓦が落ちた位で、至つて輕微の被害であつたが、熱海線根府川驛では、乗客百五十名を乗せた列車が斷崖から海中に墜落し、更に根府川鐵橋百二十尺下の同部落は、一里半に亘る大山崩れのため埋没し、九百の村民中の四百六名の死者を出した。眞鶴町は倒壊焼失三百餘戸、死者百餘名で殘存家屋は全町僅に二戸だけである。



## 八、伊東方面

—大島無事—

宇佐美村から伊東町に至る縣道筋は一とたまりもなく浚はれ、鯉船や大傳馬が六町餘も陸地に乗上げて、巨大の姿を横たへてゐる。それ程伊東の海嘯は恐ろしかつた。伊東分署の調査によれば、地震と海嘯に因る伊東町の全壊流失家屋は五百十二戸、死者八十三、行方不明十一名、宇佐美村同百三十二戸、小室村同六十三戸、死者三名となつてゐる。その他半壊家屋や重輕傷者は數知れず、伊東町の官公署は一つとして満足なものはない。漁船の流失したものは百五十隻に及んで死者の多くは漁師である。温泉地として繁榮を保つてゐる外に、伊豆の漁撈地として知られてゐる伊東町にとつて、此の漁船の流失は大打撃であらう。併し高臺に屬する温泉地帯や別荘地帯は、少しも災害を蒙つてゐない。

又た最初全島滅亡とまで傳へられた大島は、僅かに數戸破壊したとだけで、之れと云ふべき被害がない。

## 九、沼津以東

沼津でも多數の倒壊家屋を出したが、死者は僅かに五六名に過ぎない。三島は全戸數の半分期倒壊し死者二十名。御殿場驛では列車が脱線し道路に大龜裂を生じた。駿河驛では多數の民家が潰れた上、富士紡績の工場全部倒壊し、同時に火災も起つたので、女工一千名が慘死を遂げた。山北驛では機關庫が大破し、倒壊家屋約百戸、死者十二名。山北松田間も線路が破壊し、上下線の中間には小山が出来た。松田驛附近の建物は全部倒れ、死者二十餘名。松田下曾我間の線路も同様、下曾我驛は全く土中に埋没してしまつた。下曾我國府津間の線路にも山が出来て電柱も大半倒れた。

## 三、房總地方

## 一、北條、館山

千葉縣下の災害は、房州方面が激甚を極めた。北條、館山を合せて全壊家屋四千戸を出し、中にも甚だしきは、家屋と家屋とが鉢合せをして倒壊したのさへある。如何にその猛烈な地震であつたかゝわかる。随つて死者も千七十三名を算し、外に負傷者二千四十一名、行方不明五

名といふ、土地の割合としては驚くべき数字を示してゐる。北條別荘に滞在してゐた舊佐倉藩主堀田正恒伯夫人和子の外に、北條町長中目孝太郎氏家屋の倒壊で、一とたまりもなく壓死してしまつた。特に館山は、地震と共に火災を起して、一戸残らず焼失してしまひ、殆んど残存者の影もなく、たゞ屍肉をあさる野犬ばかりが、暗夜に物凄き唸りを立てゝゐる。これまで舟で往復してゐた館山灣の沖ノ島、鷹ノ島は、著るしく海底が隆起して、引汐の時には尻からげで歩いて行けるやうになつた。

北條につゞく千倉町も、毎年夏季には東京から入り込む學生の避暑客でにぎはふ所だが、此所もまた非常な慘害に完全な家は殆んど一戸も残つてゐない。附近の村落を通算して死者百五十、負傷者三百餘名と警察署は報告してゐる。

野島崎燈臺は根元から破壊して負傷者三十餘名。船形町も倒壊に續いて火災を起し、全町一千二百戸が悉く灰燼となり、隣接した那古町も激震で悉く倒壊し、わづかに那古觀音と水産講習所の實習場だけが助かつてゐる。

道路は至る所大穴があいて、一時は食糧輸送に困難を極めたが、軍隊、青年團、消防組等の

努力で漸やく交通が開け、山間の被害地へもそれ〴〵配給が行渡るやうになつた。

## 二、木更津と湊

切られ與三で知られた木更津も、千葉縣下の被害激甚地の一つである。乃ち木更津警察署の報告によれば、同署管内の全壊並びに半壊家屋は四千二百三戸に達し、死傷者百六十七名である。次に湊署管内の全半壊戸數は千五百二十三戸、死傷者百六十名で木更津に亞ぐ慘害地である。其他上總八幡、鴨川、鶴舞等は全半壊戸數各七百戸。千葉市は被害極めて少く、全壊家屋七戸、死者三名、負傷者六名に過ぎなかつたが、東京最寄りの東葛飾郡中山村では、上毛モスリンの工場が崩壊して三十餘名の職工が壓死した。

かくて千葉縣下の被害總計は、全壊一萬四千八百九十七戸、半壊七千五百五十五戸、焼失四百三十一戸、海嘯の爲めの流失が五十戸、死者千百名、負傷者三千二百九十八名といふことになる。此の外房州方面に於ては勝浦燈臺も大破を來し、又た前内閣の大臣諸氏が、別荘地として選定したと云ふことから、一時に其の名が現はれた夷隅郡興津町鶴原の大臣村も、所々に崖が崩落して、土地の發展上、多大の支障を來すに至つた。大東京の破滅と共に、避暑地避暑地

として年々幾十萬の都人士を迎へて來た湘南並びに房總地方が、殆んど擧げて、これに殉ずるに至つたのは、一種の因縁と見られぬこともない。

□交換手の沈着

千葉郵便局は地震と共に壁は落ち、瓦は碎け、電燈は消えたが、電話の交換嬢ばかりは皆階上に踏みとまり、餘震の中に沈着を持し、不眠不休で交換事務をつゞけて居た。このけげな働きによつて、千葉市警戒の連絡がとれ、災害を少くしたばかりでなく、色を失つた市民達をどれ程鼓舞したか知らなかつた。

#### 四、埼玉縣の被害

埼玉縣下で被害激甚を極めた所は、蕨町、川口町、粕壁町、幸手町等で、蕨町の機業工場、川口町の鑄物工場、粕壁幸手方面の住宅は大概倒壊して死傷者を出した。而して機業の復舊には百萬圓、鑄物の復舊には百五十萬圓を要するの外、縣の營造物も倒壊破損でこれが復舊に百萬圓以上を要する見込みである。縣下を通じての被害は、倒壊家屋五千七百六十六戸、半壊四

千二百三戸、死者二百十二名、負傷者三百七十九名。小學校の倒壊四十五校、町村役場の倒壊十二、縣立杉戸農學、粕壁中學、男子師範寄宿舎、浦和高等女學校寄宿舎等も倒壊した。

#### 五、山梨と茨城

笛吹川の堤防決潰を始め、各河川の堤防は殆んど全部龜裂を生じ、東八代郡富士見村の如きは笛吹川のため全村浸水し、農作物は全滅した。縣下を通じての被害は、家屋の倒壊五百七十一戸、半壊九百二十四棟、死者十七名、負傷者五十名、行方不明一名。

茨城縣下では土浦附近で線路沈下の爲め機關車及び客車五輛が傾斜し、内一輛は大破して即死八名、重輕傷四十三名を出した外は、之れと云ふ被害がなかつた。

大震の観測

## 一、安政以上の強震

學者の發表する所に依れば、今度の大地震は上下動を主動とし、初動繼續時間五十秒三、震幅四寸に及び、安政以上の強震である。而してこれが震源地は、三浦半島附近の相模灣で、海底の陥没に依り、發生したものであるらしい。

此の地震の區域は非常に廣く、烈、強、弱の程度に於て、九州以南北海道以北を除くの外、殆んど本州四國全土に亘つて感じてゐる。伊豆から東京、神奈川、千葉、埼玉、静岡の一部が烈震區域で、その他の地方は甚だしき影響はない。

一日初震以來、東京に於て、人體に感じた餘震數は、三日正午までに約三百十回に及んだ。此の上人體には感せず、地震計にのみ感じた程度のもを算入すれば、三日間に千七百餘回の餘震があつたと云ふことになる。餘震はその後一ヶ月以上も續いて、中には可成りの強震もあつた。而して今村博士の説に據れば東京附近の地震帯は二つある。一は江戸川より東京灣に至るもの、一は房總半島の沿岸から伊豆の南端近く海底を沿うて走るもので、世界最大の地震帯

であり、之を我日本の外側大地震帯と稱する。慶安と安政との大地震が前者に屬し、元祿と今回とが後者に屬する。前者は既に東京近傍を活動一巡し終り後者も今回にて終つた譯だから、茲數十年或は百年以上も枕を高くし得るだらうと。

## 二、斷層は相模灣

(九月二十六日中央氣象臺發表)

房總半島及び湘南地方を中心とせる土地の隆起は遠く銚子附近に及び、房總半島南端布良附近に於ては九尺前後に及び。又大磯附近にても八尺位の隆起を見、それより西するに従つて隆起減少して熱海附近に於ては氣附かざる程となる。更に南方稻取附近は反つて土地の低下せる模様にして伊豆大島も少しく低下せるが如し。即ち土地隆起の極點は房總半島の南端附近より大磯附近に至る一帯にして最大八九尺位なるべく、若し斷層等あらば相模灣内にあるべく、陸上にその跟跡を求めんとすれば小田原熱海の間にあるべく、根府川伊豆の被害は或はこれに歸因するものにあらざるか。

## □大震の餘震

微動計及び強震計觀測より見るに、震源距離も方向も區々にして、房總半島南部より相摸洋一帯横濱附近に分布せるが如く、就中二日午前十一時四十七分頃に起りたるものは九十九里濱附近にその震源を有し、勝浦にては一日の本震より反つて強かりしと云ふ。而して九十九里沿岸及び勝浦附近に小津浪を起せり。今回の地震に因る被害の甚大なるは房總半島南部、三浦半島、相摸沿岸及び熱海附近に亘る地域にして、横濱東京の被害は主として家屋の構造と火災とに歸すべきものならむ。

## □房總半島

房總半島の被害は館山北條を中心とし、那古船形を経て北上するに従ひ次第に輕微となり、木更津附近に至りては著しく被害は僅少となり、千葉市に於ては家根瓦の被害位に止まる。北條より千倉及び南三原に至る山間の地域は震動特に著しく稻都村附近は道路の破損最も甚し。此山間の地域を界として半島南部の北は地質的關係によるものが被害至つて少し。安房郡一帯海岸の道路は多く斷崖の下部を通ずるが故に到る處山崩れ多く通行尙困難なる處多し。洲ノ崎

野島崎兩燈臺は破損、特に後者は全く破壊せられて舊態を止めず、布良測候所も亦大破使用に耐えざるに至れり。所謂外房州一帯は千倉南三原附近に於ては被害輕微にして記すに足らず、半島一帯土地隆起せるため湊、西岬、富崎其他の漁港は船舶の出入に困難となり、全く港の價値を失ふに至れるものすら見受けたり。既記の如く半島南部の一部は地震の被害至つて輕微なりしに關らず、津浪の來襲によりて家屋の流失船舶の破損等を見るに至りたり。津浪の高さは洲の崎にて約二十尺、富崎村にて約十二尺位なり、勝浦以北にては一日の津浪は著しがらざりしが如くなれど二日の餘震によりて小津浪あり、高さ約六尺位にて被害を見るに至らざりしは幸ひなり。

## □銚子及布良

銚子に於ける微動計は地震の初めに當り、西微南に動き布良に於ては北々西に動きたり。尙二日午前十一時四十七分のものも銚子に於て北々東に動きたり。これの結果と水戸（略北東に動く）東京（同上）の觀測を以て一日午前十一時五十八分の本震の震源位置を求むれば、三浦半島附近にあるもの、如く、二日午前十一時四十七分ものは、勝浦附近の海上にあるものの如

し。初動方向は地質的影響多大なれば更に多数の観測を以てするにあらざれば震源の位置を決定すること困難なり。(本報告中熱海小田原方面の調査は海洋氣象臺技師須田完次氏による)

### 三、發表的中

測量艦武藏は測量班長大谷水路中佐指揮の下に、九月二十二日未明から、三崎瀬戸海岸を手に初めに松輪崎、劍崎、金田灣と順次測量作業をなし、翌々二十四日震源地と目されてゐる大島附近の測量を試みた處、果して相摸灣の中央大島の北方十八哩の沖合に於て、從來の海圖に最深七百七十七尋と記されてあつた個所が八百二十五尋(五千尺)となつて、五十尋からの深さを増し、此の附近の海底に陥没個所のあることを認めた。即ち先きに發表された地震計上の判断たる震源は大島の北東海上——哩とあつたのに符節を合はせるが如き結果を得た。

#### □震源地調査

東北帝國大學理學部地質學教室では、今回の震源地の地質を徹底的に調査することとなり、矢部克博士指導の下に約二ヶ月間滞在研究すべく、左の五班に分れて出發した。而して矢部博

士の本部たる浦和高等學校にあつて、各班の調査報告に基づき、各地を一巡することになつてゐる。

△第一班 三浦半島、大島附近、青木講師 學生一名

△第二班 房總半島、清水副手 學生一名

△第三班 伊豆半島南半、吉井講師 學生一名

△第四班 伊豆半島北半、長尾講師 學生二名

△第五班 關東地方八王子以北、高崎助手學生一名

△本部 高校 矢部博士、學生數名

#### □地震豫知の發見

今度の大地震は真に一瞬間の襲來で、地震計にも感じない程急激なものであつたのだが、それが横須賀海軍工廠の檢潮機の潮高曲線表は、地震の起る前約七時間三十分、即ち一日の午前四時半頃から震動を感じてゐた事が、十七日目に至つて發見された。それは將來の地震豫知と云ふことから其の儘にすべきでないと目下海軍では熱心に學理的研究を試みてゐる。

## 四、三つの断層地震

断層地震の世界的記録を貽したものは、明治二十四年十二月二十八日我國に起れる濃尾の地震、明治三十九年（一九〇六年）四月十八日米國サンフランシスコに起つた彼の有名な桑港の大地震であつた。明治三十九年三月十七日我が臺灣に起れる嘉義の大地震も、断層地震としては學問上重大なもので、此の三者を比較して學者は次の如く言つて居る。

『此の三大地震の断層は、各々約二十五里、百十里及び十二里の非常な長さに亘つて居る。而して三者共に断層附近に於ける震動方向が並行して、何れも直角ではなかつた。就中陥落の最も大であつたのは濃尾の地震で、上下の断層が十八尺であつた。又横じりの最も大きかつたのは桑港の大地震で、水平断層が二十一呎の長きに及んだ。』  
最も濃尾地震の断層は同時に十八尺に及ぶ横じりがあり、桑港大地震には二呎以内の陥落はあつたのである。嘉義の地震は此の二つに比すれば、遙に小さなもので、断層の示せる最大陥落及び横じりは何れも八尺であつたのである。

## □寶永の地震と富士

火山の破裂する時、其の勢力が四圍の土地に激動を與へて、所謂地響き地震を起すことがある。けれども其の震動は多く微少で、震域も噴口により十里内外の距離に止まるものである。然し爆裂に伴ふ空氣の波動は百里餘の遠距離に達し、家屋を振動破壊することがある。

明治廿一年岩代磐梯山大破裂の時、震波は四圍十二里半に達し、震動區域の面積は一萬方呎であつた。又同二十六年五月十九日同國吾妻山の破裂の時の地震は、中心より五里の距離に達した。

噴火と地震とは、往々にして關係を有し、我國最大の地震と云はるゝ寶永の地震は富士破裂の約五十日以前に於てし、磐梯山、有珠山の爆破にも大地震があつたのである。



米國地震學者の發表

昨年の智利震災を調査研究すべく、カーネギー學術研究協會より南米に派遣されたペーリー・ウイリス教授は、驚くべき報告を發表して曰く。アンデス山は東方に向つて移動し加州の山脈は北方に向つて移動しつゝあり、右移動の結果昨年智利に地震起り、最近日本に大地震が起つたものであつて桑港も其一般的法則より脱し得なかつたのであると思はれる。地球の表面の變化は永久的であるから今後家屋を建築するに當つて耐震家屋を建築すべく心掛けねばならぬ。尙同教授は南米のアンデス山脈は一世紀間に一メートル乃至二メートルの割合で東方に向ひ移動しつゝありと斷言した。

江戸時代の大地震大火

——附桑港の震災——

## 一、安政の大地震

安政年間には、誠に地震が多かつた。大森理學博士は言ふ、『安政元年十一月四日五日、此の兩日に起つた。地震も大きかつた。(嘉永元年二月二日の小田原地震より、安政五年三月十日の松代領地震まで、五年一ヶ月間に八回の大地震があつた)四日の地震は、東海道の海底から發し、五日のは南海道の海底から發し、共に非常な津浪を起した。而して四日の地震は尾張、伊勢から以東伊豆に亘つて最も強く、五日の地震は紀州から以西九州に亘つて最も強かつた。

翌安政二年十月二日午後十時頃に起れる江戸地震と云ふものは、一名安政の大地震と稱へ、局部的激震として後世に記録を貽したものである。震動の激しかつたのは、江戸と其東隣地直徑約六七里、多少震害を生じたる地方は、直徑約二十七八里に達して居る『安政見聞録』の記す所に據れば、地震の當夜は風常よりも靜かにして、震後諸所より火を發したが、火勢弱く、火先き遠くに及ばなかつた。と、又、品川に掛け居る大船は、忽ち三尺ばかり空へ上ると見る内、數百の雷の轟く如き震動劇しかつたけれども、海上は却つて靜かであつたと云ふ。然るに

深川蛤町では、魚商某の妻、地震を遁れようと思ひ先へ飛び出した所が、往來に潮水押寄せ來り、道を失つて困つて居ると、其の内家が倒れたけれども棟を超えて逃れたと云ふ話がある。

近郊で地震の激しかつた所は龜有であつた。そこでは田畑の中に山の如きもの一時に生じ、側に大きな沼の如きものが現はれ、潰家怪我人があつたと云ふ。此の附近から龜戸、本所、深川等に至る一帯の地は震源地であつたと思はれる。逆井では地面が裂け、七石餘の麥が土中に埋没し、平井では燈明寺の山門が傾き、鳥居倒れ、行徳の行徳寺が破損した。又品川沖二番臺場の建物潰れ、出火したと云うて居る。此處の守衛をして居つた會津藩士の即死したもの十六人、中には逃るゝ途なく自殺したものがあつたと。近國では成田の邊が江戸よりは地震弱く石燈籠の類の倒れたものがあつた。神奈川宿では天神の山腹が崩壊した。微震は南西の方小田原に達し、西北の方は信州に及び、同刻高遠の城下にも地震があつた。越後の新潟では、二日午後十時頃少しく地震があつて長く揺いだと云ふ。

江戸での震動は激烈であつたらうが、往々世人の唱ふるやうな十萬人も壓死したのではない當時町奉行配下の各名主から届け出た所を見ると、市内では武家を除き、變死人合計三千八百

九十五人、外に重傷千九百人である。潰家は一萬四千三百四十六軒で、潰家四軒に付一人の死者があつた割合である。武家と町家を合すれば、震死者の数は約七千人であらうと云ふ。江戸の内で震害の甚しかつた地方は、深川、本所、下谷、淺草で、名主よりの届出では、深川では變死者八百六十八人、本所では三百八十五人、下谷では三百七十二人、淺草では五百六十六人であつた。山手の土地堅硬な場所は震害が誠に軽く、下町でも、日本橋、京橋、新橋附近は損害が意外に少なかつた。例へば今川橋より新橋に至る間では、一番組に變死人八十一、四番組には十五人、五番組にて二十七人、六番組には八人であつた。

震災後に、市内各所から火災が起つた。神田小川町邊、深川、本所、淺草、吉原等を始めとし、通計三十餘口の失火があり、町家焼失の面積を合すれば、幅二町、長さ二里十九町に達したと云ふ。即ち總面積は約四十町平方で、一哩平方となるのである。最初に焼けたのは吉原であつて、夜明けまでには大抵鎮火したけれども、所に依つて全く消滅したのは次の日の午前十時であつた。總じて郊外の埋立地などは、震害は常に他の町よりも甚しいものである。川岸の地割れは幅一二尺乃至四五尺であつた。江戸川邊も震動強く、水戸邸では藤田東湖、戸田忠太

の兩士は震死を遂げた。淺草五重塔の九輪曲り、又谷中天王寺の塔の九輪も落ちたが、塔はいづれも無事であつた。小川町邊は震動殊に劇しく、出火もあつたが、小川町の火見櫓は火中に残された。此種の構造はいかに強い地震でも、基礎が堅固だから全體轉倒することのないものである。

大震後の餘震は多かつた。安政二年十月中に百四十三回、十一月中には十九回、其の後は大に減少した。此のうち最も強かつたのは、大震後五日目即ち十七日午後六時頃の地震で、本所邊では潰家死人があつたと云ふ。又十月十八日夜の強雨で、小屋掛の者は大層難儀したがそれから強震はなく、回数も少くなつた。

## 二、明暦の大火

明暦の大火、世に『振袖火事』又は『丸山火事』と稱するものは、歴史上有名なるものである。

一、本郷本妙寺より出た火

方向北西、深川まで四十八町餘、二日の火災、大名五百軒、旗本七百七十軒。

二、小石川傳通院前より出た火

方向北、五十三町餘、堂社三百五十、

三、麴町五丁目より出た火

方向北、札の辻海手まで四十町餘、焼死十萬七千四十六人、

明曆三年正月十八日であつた。此の日未の刻、本郷本妙寺より火を發し、湯島神田邊、淺草御門内町屋、通町筋、鎌倉河岸、京橋八丁堀、靈岸島、鐵砲洲、海手、佃島、深川に延焼し、江戸城の本丸、二の丸ともに炎上す。

翌くる十九日、巳の刻小石川傳通院新鷹匠町より出火、牛込御門、田安御門、神田橋御門、常盤橋御門、吳服橋御門、八重洲河岸、大名小路、數寄屋橋御門等が焼失した。同日また番町より火が出て、半藏御門の外、櫻田東御門、愛宕下、増上寺門前、札の辻、海手までに焼けた。

類焼したのは万石以上の大名屋敷五百餘宇、旗本七百餘宇、町屋四百町、片町八百町、焼死した者十萬七千四十六人（一説に十萬二千餘と云ふ）であつた。依て本所に方二町の地を賜ひ

死屍を舟にて運ばせ、塚を築き寺を建て、國豊山無縁寺回向院と名づけた。囚獄の罪人を火災に當つて放つことが、此の時から始まつたと云ふ。『武藏鑑』にそのことが書いてある。

失火の原因に就ては『明曆大火由來』に次の如く記してある。

淺草諏訪町に、大増屋十右衛門といふ商人あり。娘をきくと云ふ。容姿人にすぐれたり。一當日縮緬裾模様の振袖を着て淺草觀世音に參詣し、雷門にて、黒羽二重の振袖に萌黄茶苧の袴をつけし美少年を見初めて病を發し、終に相果てたれば、明曆元年正月十六日菩提所本妙寺に葬送す。かの紫縮緬の振袖を棺の上にかけたり。

本郷元町麴屋吉兵衛の娘花と云ふ者あり。年十六これも容顏人にすぐれたり、或る時近邊の古着店に紫縮緬の振袖を見出で、兩親に請ひてこれを購ひしが、それより病起りて死したり。明曆二年正月十六日、お花葬送の式に又かの振袖を棺の上にかけて本妙寺に送りぬ。

此の日大増屋十右衛門夫婦は、娘きくの一週忌にて墓參りに來りしが、十六歳なる娘の葬禮と聞き大に同情して回向したるに、棺上の振袖は我が娘のなれば、不思議に思ながらも歸宅せり。

其の頃、中橋に伊勢屋五兵衛といふ質屋あり、娘をたつと云ひて、これも年十六、姿色人にすぐれたり。質物の流れの紫縮緬の振袖を見て、請ふがまゝに兩親これを與へしに、此の娘も病にかゝりて死し、同三年正月十六日、遺骸を本妙寺に送り、又彼の振袖を棺の上にかけたり。

此の日大増屋十右衛門は娘の三回忌、麴屋五兵衛は娘の一回忌にて、双方とも墓参したるが、重ね々々不思議さに、三人語り合ひて和尚に施餓鬼を行ひ振袖を焼かんことを求めたれば和尚は同月十八日本堂々前にて、所化三十人と經文を讀誦し、かの振袖を火中に投じたり。時に一陣の西北の風俄然として起り、かの振袖を本堂の箱棟に吹上げたが、火炎天を焦して十二の寺中看る／＼灰燼となり、却火湯島より旅籠町に移り、堀を越えて駿河臺に及び、遂に江戸全市の大火とはなりぬ。

### 三、桑港の大火災

サンフランシスコの大地震は、激震地帯は頗る廣く、北方はユーリカ附近から、南の方サリ

ナス附近に達する一帯の海岸に亘り、其の延長は約二百二十里であつた。之を延長百六十里の我が濃尾地震に比すれば、桑港の激震地帯は可成り廣いものである。

當時、サンフランシスコ驗潮儀の示す所によれば、少しく海水の動搖ありて約五寸の高低を示し、四十分毎に一回往復振動があつて震後半日間に亘つた。けれども、海水の動搖は津浪と云ふ程のものではなかつたと云ふ。

震後の大火災は未曾有のもので、火は三晝夜燃え廣がり、市中屈指の部分悉く焼き拂ひ、焼失各町の總面積は六十四方に達し、かの有名なる一六六六年のロンドンの大火の廣さに六倍したのである。けれども幸に變死者の數は意外に少く、警察で調べた數は僅に四百名に過ぎなかつた。他の地方では、桑港よりも震動の數等強かつた所はあるが、死者の數は僅少であつた。市中でも震害の甚しかつた土地は、埋地などの柔弱な土地に限り、其の震度は、濃尾地震の時に於ける名古屋、福井の如く強くはなかつた。震動の大きさは約二寸五分であつた。

## 大 正 震 災 記 畢

大正拾貳年拾二月五日印  
大正拾貳年拾二月七日發行

大正震災記

定價貳圓五拾錢

編者 長井修吉

發行者 東京府下日暮里町谷中本十八  
大正震災記錄編纂會

代表者 佐藤三郎  
代表者 大谷忠治 耶

印刷者 東京市牛込區早稻田鶴卷町三〇  
生田猶次

不許  
復製

發兌  
發兌

東京日暮里谷中本十八番  
東京日暮里谷中本十七番  
東京日暮里谷中本十八番  
東京日暮里谷中本十八番

新文  
作社  
行社

溝口印刷所  
東京市小石川日新町

26  
32

終